第2回景観計画策定委員会の対応

No	指摘・意見	対応方針	該当ページ
1	・どういふものを行政がトップダウンでやるか、どういふものを市民がボトムアップでやるのか、それから新たな景観を創造していくという、3タイプのアクションプランが必要で、読む人に分かるように書くべき	⇒冒頭の景観まちづくりの全体像で「基盤の保全」、「共感と協働」、「創造的未來」の3タイプを説明	冒頭
2	・景観計画の最初に見開き等で、全体の内容が分かる要点をまとめたような骨子を付けた方が計画を読みやすいのではないかと	⇒冒頭と序章6.「本計画の構成」で景観計画の骨子を説明	冒頭 P9
3	・国の新しい時流のSociety5.0の超スマート社会やSDGsの継続可能な開発目標などを押さえておくことが必要	⇒序章2.「長久手の景観を取り巻く社会潮流」で紹介	P4
4	・官民一体の協働プロジェクトで、例えばエリアマネジメントだったり、ミズベリングの活用だったり考えられる	⇒序章2.「長久手の景観を取り巻く社会潮流」で紹介及び、第4章2.エリアマネジメント等による取り組みを紹介	P4、 P58
5	・次世代的な新技術(デジタルサイネージ・プロジェクションマッピング等)についての市の考え方の整理が必要	⇒序章2.「長久手の景観を取り巻く社会潮流」で紹介 ⇒第3章5.「屋外広告物における規制誘導」で、デジタルサイネージ・プロジェクションマッピングなどを活用する場合は、事前に市と協議することを明記した	P5、 P48
6	・タイトルを簡単にし、キーワードを前に出す	⇒シンプルで分かりやすいタイトルに修正した	—
7	・田園、丘陵地域の景観形成基準で、屋根の形状の記載があるが、形状のみではなく、総合的に判断するのが良い	⇒田園地域、丘陵地域の景観形成基準で屋根の基準から「周辺の田園風景や里山風景に配慮した高さとする」に変更した	P44
8	・丘陵地域の中の田園風景について、農業の後継ぎがほとんどいない中で、田園風景の存続は可能なのか	⇒序章2.「長久手の景観を取り巻く社会潮流」で景観を維持する新たな担い手の育成と休耕田への取り組みを明記した	P5
9	・農のある風景がなくなるということは、防災とか減災に多大な影響が出てき来ることを計画に盛り込むと盛り込むといいと思う	⇒序章2.「長久手の景観を取り巻く社会潮流」で安心・安全の観点から里地里山の保全の必要性を明記した	P5
10	・農地の保全は複雑で、多分、結論が出ないと思う。ひとまずこの委員の中で考え方の骨子を作り、景観計画に方針をまとめ上げて、次にどうするかの話をした方が良い	⇒第1章5.「景観まちづくりの課題のまとめ」で農地の保全を課題にあげ、第4章1.「共感で進める景観まちづくり」で農のある風景を共感する風景に位置づけた	P26、P51
11	・幹線沿線地域は、景観軸として重要な幹線道路沿いが田園地帯も市街地もひとくくりになっている	⇒幹線沿道地域を市街化区域と市街化調整区域の二つに分け、景観形成基準も分けた。	P32、P37、 P42～43
12	・持続可能な計画を行い、河川の清掃や里山の保全に市民を巻き込んで、それぞれ愛着とか、誇りとか持たせるような計画にしている必要がある	⇒第4章2.「共感から協働へ」で、これからの市民へ景観を引き継ぐで、河川清掃や里山ボランティアの活動を推進していく	P56
13	・池という単語はあまり見られないが、池についてはどうなるのか	⇒第1章5.「景観まちづくりの課題のまとめ」で、ため池の水質の課題をあげ、第3章の基本方針4の水と緑の景観づくりにつなげる	P26、P31
14	・香流川の整備と関連計画の位置づけの整理が必要	⇒香流川整備計画を序章4.「景観計画策定について」の景観計画の位置づけの関連計画に香流川整備計画を追加した	P7